



大浦 隆司

参集署 西
平成28年3月退職

1 消防を目指したきっかけ

学生時代は理系の道を進んでいたことで何となく将来は技術者と思っていましたが、就職活動をしている時にやりがいのある仕事として消防が浮かんできました。誕生日が11月9日だということ、運命的な感じがして消防に決めました。

2 火災現場において

数年前のことですが、鉄筋コンクリート造5階建てマンションの

1階から出火し、火元の二人が亡くなった火災で4階まで延焼しました。消防設備について問題はなかったものの、建築基準法の重大な欠陥のある違反建築物でした。

この火災で特に残念だったのは、通常の耐火構造のマンションでは考えられないことですが、2階の一室でも一人の住人が犠牲になりました。後で判ったことですが30代の女性でした。

建築基準法上の欠陥があった建物での不幸な事案として今でも鮮明に覚えています。

3 指令システムの変遷に携わって

指令システムの構築・保守を担当する部署で通算8年、また、指令システムを運用する指令室において5年間の業務に従事しました。

大阪市消防局では昭和53年に

指令システムにコンピュータが全国に先駆けて導入されました。

また、平成10年にはANSI-Nシステムが稼働し、GPS機能により災害現場にもっとも近い消防車や救急車をその都度選んで出場させることが可能となりました。これは当時としては画期的なことで消防の指令システムの最先端の技術でしたから、その分色々苦労もありました。

現在では全国のほぼすべての消防本部で当たり前のように指令システムを活用した業務を行っています。大阪消防がその先駆けとなる指令システムの構築に携わることができ、何らかの貢献ができたことに誇りを持っています。そういった今日に至る歴史をご存じない若い職員の皆さんも、時々大阪消防の歴史に触れ、誇りを持って仕事をしてほしいと思っています。

4 時代の変化を目的の当たり前にして

士長時代に計画課で勤務していました。当時は正式文書を作成するには和文タイプライターを使用していました。それ

からワープロというものが導入され、さらにはパソコンに移行したものの当初は「太郎、ロータス等のソフトを使っています。その後主流のワード、エクセルへとソフトが変わっていきますが、文書作成に関する機能の充実、驚異的な高度化には驚くばかりでした。

5 後輩に伝えたい事

消防の業務は基本的には変わっていませんが、その目的遂行のための手段が大きく変わってきています。手段が便利になればなる程、目的を忘れることなく基本的に忠実に業務に励んでいただきたいと思っています。

6 定年まで無事に勤められたのは

消防に対する住民をはじめとする周りの人達の協力と期待のこもった暖かい気持ちで見守ってくださっていることを痛感し、そんな皆さんの気持ちに伝えるべく日々消防の仕事に誇りをもって、自分なりにやってこれたからだと思います。